

区 分	内 容
議 題	県都まえばし創生本部有識者会議 令和元年度第1回会議
日 時	令和元年11月8日(金) 午前10時00分～11時35分
場 所	前橋市役所 31会議室
出 席 者	<p>【委員】 (産) 中島座長、木村委員(代理:野澤委員) (学) 星委員、登坂委員、大森委員 (官) 廣瀬委員 (金) 武井委員、荻原委員、田村委員 (労) 鈴木委員、前田委員 (言) 小淵委員 (住民) 松井(英)委員</p> <p>※石倉委員、小中委員、松井(淳)委員、角田委員は都合により欠席 ※中島座長の代理発言者として、前橋商工会議所の村井事務局長が出席</p> <p>【前橋市】 山本市長、中島副市長、塩崎教育長、箕輪公営企業管理者、稲田政策部長、 草野政策推進課長、木村産業政策課長、飯塚市街地整備課長、ほか関係職員</p>
発 言 内 容 稲田政策部長	<p>皆様、大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>ただいまから、県都まえばし創生本部有識者会議・令和元年度第1回会議を開会いたします。</p> <p>私は、本日の進行を務めます、前橋市政策部長の稲田と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、今年度から新しく委員になられた4名の方のご紹介と、委嘱状の交付をさせていただきます。</p> <p>恐れ入りますが、名前を呼ばれた方は、その場でご起立をお願いいたします。</p> <p>群馬県前橋行政県税事務所 所長 廣瀬 明男 様 群馬銀行 常務執行役員 本店営業部長 武井 勉 様 前橋公共職業安定所 所長 鈴木 勉 様 前橋市社会福祉協議会 常務理事 松井 英治 様</p> <p>それでは、山本市長より、委嘱状の交付をお願いいたします。</p> <p>【山本市長より委嘱状を交付】</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>4名の委員の皆様方、どうぞよろしくお願い申し上げます。 ご着席ください。</p> <p>それでは、県都まえばし創生本部・本部長の山本市長よりごあいさつを申し上げます。</p>

山本市長	<p>県都まえばし創生本部有識者会議、各委員の皆様、本当にありがとうございます。総合戦略や人口ビジョン、様々なめぶくビジョン、そして、まちの中におけるアーバンデザイン。あるいは郊外北部の赤城山麓における、スローシティの理念。様々な理念がかみ合っ、包含し、そして支え合いながら、前橋市をより人が暮らしやすいまちにしていこうとする私たちの方向性は正しいと考えております。</p> <p>その中で、各委員から様々なご意見をいただき、そして委員それぞれのお立場で活動している、そのフィールドにおいてのいろいろなチャレンジについてもお話をいただきながら、この会議で審議をしていければと思っております。どうぞ、できるだけ枠にはまらず、また、我々事務局側に対しての提案も忘れたんのないご意見をいただいた方が、より市民にも還元できるものと考えております。</p> <p>中島座長をはじめ、各委員の皆様、これからも長いお付き合いとなりますが、よろしく願い申し上げます。私からのお礼のご挨拶とさせていただきます。</p>
稲田政策部長	<p>ここで、市長はこの後、他の公務がございますので退席をさせていただきます。</p> <p>それでは、議事に入ります前に配布資料の確認をさせていただきます。本日の配布資料は13種類でございます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 次第 2 委員名簿 3 県都まえばし創生本部有識者会議設置要綱 4 第七次前橋市総合計画と前橋版総合戦略について 5 第七次前橋市総合計画 概要版 6 県都まえばし創生プラン 概要版 7 資料1 令和元年度 行政評価結果一覧 8 資料2 令和元年度 行政評価（全53事業） 9 資料3 行政評価に対する意見等 10 資料4 前橋版総合戦略の進捗状況及び本市の人口動向 11 資料5 前橋版総合戦略 地方創生推進交付金事業 効果検証 12 資料6 地方創生推進交付金事業に対する意見等 13 資料7 次期総合戦略 策定方針 <p>以上となりますが、配布漏れ等はありませんでしょうか。</p> <p>委員名簿をご覧ください。本日は、3番のJR東日本高崎支社長さんの代理で総務部担当部長の野澤浩一様が出席されておられます。また、8番の松井(淳)委員さんですが、急遽、ご欠席ということで連絡がありました。</p> <p>それでは続きまして、次第の「3 議事」に移らせていただきます。</p> <p>ここからの進行は、設置要綱第5条によりまして、前橋商工会議所の中島委員さんに座長をお願いしたいと思います。</p> <p>なお、中島座長さんには議事進行に専念していただくため、前橋商工会議所の村井事務局長さんに会議に加わっていただきますのでご了承いただきたいと思っております。</p>

中島座長	<p>それでは中島座長さん、恐れ入りますが、冒頭に一言ご挨拶をいただきまして、議事進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>ご紹介いただきました前橋商工会議所の中島でございます。</p> <p>委員の皆様には大変お忙しい中、今年度第1回目の有識者会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>さて、本市の最上位計画であります第七次前橋市総合計画でございますが、平成29年度に開催されました本会議においての意見交換を経て策定をされた経緯がございます。</p> <p>本日は、その計画期間の初年度、つまり平成30年度の取組に対する事務局等の評価について、皆様からのご意見をいただくというものでございます。</p> <p>また、本会議において、意見や助言を申し上げてきました県都まえばし創生プランについては、今年度が計画の最終年度となっております。</p> <p>国においても、これまでの5年間の取組の結果、人口の東京一極集中が是正されていないということが示されまして、6月に「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」が閣議決定され、国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が年内にも策定される予定となっております。</p> <p>このことから、本市が人口減少問題の解決に向けた取組を中長期的に進めていくに当たりまして、それぞれの委員の皆様から忌たんのないご意見をいただければと思っております。</p> <p>本日は、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事の(1)第七次前橋市総合計画の進行管理について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
草野政策推進課長	<p>【資料1、2、3に基づき説明】</p>
中島座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>皆さんからご意見をいただくところですが、先に申し訳ございません。前橋商工会議所からは8項目ほど意見を出ささせていただきまして、一番良かったところと、悪かったところを申し上げたいと思います。</p> <p>一番良かったところは、重点事業No.45の「ファシリティマネジメントの推進」でございます。これは、成果指標等よく考えて作成されておりまして、概ね順調に取組を進めているということで、この事業については継続していただきたいと思っております。半面、ここ数年の間にまちなかの大型市有施設の売却問題がいろいろと出ております。これをどうということではなく、きちんとした説明責任の下に、売却の方向性であれば、事務を進めていただきたいというものでございます。</p> <p>それと、草野課長の説明にもありましたように、重点事業No.40の「まちなかの魅力向上」という事業ですが、最初に資料をもらった時に、一番気になった</p>

	<p>ところでございます。成果指標が交通量だけでよいのかという問題を含めまして、全てがA評価というのは違うのではないかと申し上げたところ、B評価に変えるということなのですが、変えていただくのは良いのですが、なぜAになったのか、そのプロセスをもう少し説明していただきたいと思います。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>A評価になった理由でございますが、評価の視野が少し狭かった部分があったと思います。そのため、外部委員さんの意見を聞いて、内部で幅広く議論をいたしました。また、新しい取組をいくつか、商工会議所等を含めて始めているところがありますので、少し期待値というところで自己評価が甘くなったと認識しております。</p>
<p>中島座長</p>	<p>はい、分かりました。そうしましたら、村井局長、まちなかの新しい動きなどを少しお話いただければと思います。</p>
<p>村井委員</p>	<p>市長の挨拶の中にもありましたが、前橋市アーバンデザインを策定していただきました。商工会議所でも3年前から民間の方々と、特に中心市街地の活性化について、様々な団体や活性化に取り組んでいただいている方々を集めまして、みんなでもう一度まちなかの活性化を考え、行政だけではなくて、そこに住んでいる市民が自分たちでまちづくりをきちんとしようということで、まちづくりの組織を作ってはどうかと議論を重ねてきました。</p> <p>ただ組織を作っても何をやりたいのか、目的がはっきりしないと意味がありませんので、ビジョンを作ろうということで、「GREEN&RELAX」を策定いたしました。前橋は元々水と緑と詩のまちという大きいテーマの中でまちづくりを進めているのですが、それがなかなかまちなかで体験できないということもありまして、まず緑は大事ですので、そういったものを活かしたまちづくりをしようということで、そこにきちんとしたビジネスが成り立つような仕組みを作ってまちなかを活性化しようというビジョンを作りました。</p> <p>これを目標に、新しいまちづくりの会社を作っていこうと、現在、一般社団法人として、前橋デザインコミッションというデザインにこだわったまちづくりをして、魅力的なまちづくりをしようとしています。</p> <p>市でアーバンデザインを作っていただきましたので、この辺りを一緒に連携して、行政と手を組んでまちづくりを進められると良いと思っています。</p> <p>東京一極集中がなかなか止まらないという中で、100キロ圏内にある前橋市ですから、当然可能性があれば若い人たちも帰ってくるでしょうし、あるいは魅力的な会社も出てくる可能性もあります。</p> <p>やはり、まちに魅力がないと、なかなか企業も人も帰って来ないということがあると思います。特に若い女性で東京に出ていった人たちに聞くと、前橋に帰って来ない理由は、前橋のまちに魅力がないとか、二次交通といった公共交通が不便だと。車がないとあのまちは不便だとか、勤め先があまり良いところがないといった話が非常に多いです。</p> <p>地域が良くなると企業も出てくるかもしれないし、素敵なまちなら住んでくれる可能性もあるし、前橋は特に災害も少ない住みやすいまちだと思いますし、市が教育だとか医療などの事業をやっているというので、本来ですと前橋</p>

に帰ってきてくれても良いのかなと思いますが、なかなかうまくいかない。
まずは、このまちづくりをやりながら、魅力的なまちを作って、うまく東京の企業や人を前橋に呼び込みたいと進めているところです。
もう一つ公共交通という面では、先ほど説明がありましたように、市が公共交通網の再編計画を作っています。
特にバスの運行につきましては、バス会社といろいろな形で折衝をさせていただいておりますので、今後は、どんどんそういったものを進めていただいて、車がなくても生活できるような仕組みを作っていただくと更に良いのかなと思っています。その辺りを含めて、商工会議所は現在進めているという状況でございます。

中島座長

ありがとうございました。冒頭から商工会議所だけで時間を取ってしまうと大変申し訳ないので、各委員さんをお願いしたいと思います。
まず大森委員さん、いかがでしょう。

大森委員

はい。様々な評価を拝見して意見を申し上げたところなので、そのことについて。今、説明をお聞きして気が付いたことを1つと、今日の大きなテーマとして若者定着ということが課題でして、そのことに関して商工会議所と前橋6大学、市役所と一緒に作っためぶくプラットフォームの中で見えてきたデータをご紹介できればと思います。

1つ気が付いたことというのは、先ほどご説明いただいた文化財の活用の件です。なかなか難しいのは重々承知ですけれども、文化財系は教育委員会の文化財保護課と市長部局の文化国際課の方で歴史文化活用となっているわけですが、文化財の方は専門の先生がいなくて難しいですので、そこはやはり教育委員会の中でしっかりと保護や整備をしていくことが重要ですが、活用の部分ではできればそこでタグを組んだチームがあると、様々な知見をもとにより効果を生めるのではないかと感じたところです。両方で発信をしていますけれどもチームを組めると良いかなと先ほど聞いて感じました。

それから結婚の話がありましたけれども、群馬県の会議にも出ているのですが、今まではアンケートをとると9割なりの若者が結婚はしたいけれどもしていないという状況でしたけれども、最近群馬県が行った調査では数値は忘れてしまいましたが、結婚したいという希望自体が減っているということになっています。それに対するソリューションというのは誰もまだ見えていないところなので、そういうことを前提にということでしょうか、みんな結婚したいと思っているから応援しようというのが今までだったと思うのですが、そうでもないとなったときに結婚ありきなのかも含めて考える時がきているのかもしれない。

それから地元定着ということに関しては、今までは大学進学時それから就職時に出ていってしまうということで、明確な数字というのは市の方で住民基本台帳の異動でしか掴めなかったと思うのですが、めぶくプラットフォームが形成されたことで、6大学がデータを持ち寄ることができるようになりました。少し見えてきた部分がありますので少しご紹介させていただきます。

平成30年3月に卒業したデータが今持っている中で最新なのですが、前橋6

大学を卒業した学生が2,134人おります。進学とか地元へ帰るとかそれから社会人学生もおりますので、全員が就職するわけではありませんが、そのうち就職した学生は1,465人。その1,465人のうち県内に就職した学生は810人です。パーセントにすると約55%、これは全国的にみて決して悪くない数字です。半分以上の学生が県内に就職しています。ちなみに前橋市内に事業所や本社がある企業に就職した学生は290人です。そうしますと、就職した学生に対しては20%が前橋市内に就職していることとなります。それから県内就職者のうち約36%が前橋市内に就職しているということで、割合だけでいうとすごく悪いということではないと思います。もちろん、この数字をもっと上げていきたいという思いは当然あります。

面白いデータなのですが、先ほどの卒業した学生を4年前に遡ると、2,134人のうち前橋市内の12高校出身者は306人です。前橋市に住所があるかは別です。そのうち就職したのが231人。その231人のうち、県内に就職しているのが184人、前橋市内の高校出身者の約80%が前橋市内の大学で学んで、そのうち約80%が県内に就職しています。数は184人と少ないのですが、割合でいうとこれはかなり高い数字だと思います。ちなみに前橋市内に就職したのはそのうち84人で、就職者に対しては約36%ということになります。前橋市外の高校出身者の県内就職者は50%です。前橋市内の高校出身者は80%ですから、地元に残りたいので地元の大学を選ぶということもあると思いますけれども、地元の子は地元で学ぶと地元で定着してくれるという道筋がある程度見えてくるだろうと思います。

今度は高校生の話ですけれども、平成29年3月に前橋市内の高校を卒業した人が3,277人います。学年が違いますので先ほどの数字とは別人になります。そのうち大学に進学したのが1,933人。これは凄い数ですけれども、60%が大学に進学しているということです。群馬県全体だと約47%の大学進学率ですから、それに対して6割の大学進学率というのは優秀な子たちが揃っているということだと思います。大学に進学した1,933人のうち、前橋6大学に進学したのは256人。大学進学者のうち約13%ということになります。これはちょっと高いとは言えないのかなと感じています。先ほどの理屈で言うと、8割が県内に就職してくれるわけですから、ここの数字を上げていければ、ということを考えているのではないかとということで、プラットフォームでも合同進学説明会などの取組を始めているところです。もちろん、若者の未来は若者のためがあるので、無理に縛り付けるのは違うと思いますけれども、市内6大学の魅力を更に上げて発信をしていくことで選択肢にきちんと入れていく取組をするその先に就職時に出ていく子を2割に抑えていくことができるという可能性が見えてきたのかなと思います。そういう意味で総合戦略の中で今後動いていくと思いますけれども、市内の高等教育機関をしっかりと活用する、そしてそれを活性化させていくということは、本来文部科学省の管轄ですから今までは市の役割ではなかったと思いますけれども、市の一つの役目として、我々も頑張りますけれども、きちんと位置付けていただくことが一つの財産だと思いますので、考えていただく必要が出てくるのかなと思います。

ちなみにプラットフォームについては来週火曜日に政府の中央教育審議会でも前橋の取組を報告して欲しいと言われていて、行って報告をしてまいります。

<p>中島座長</p>	<p>全国的にも注目をされている取組です。以上です。</p> <p>ありがとうございました。細かいデータがいろいろ出てきましたけれども、確かにデータを見て戦略を打つというのは大変重要だと思いますし、文化財行政が教育委員会と市長部局にまたがっているという部分の話については、別の所属の話ですと、現在スポーツ課は市長部局ですけども従前は教育委員会にありました。そのスポーツ課の前身は保健体育課という歴史の中で今は市長部局にあり、県も同様のかたちになっています。組織論的な話になってしまうのですが、その辺りについて全体を統括する副市长さん、何かご意見ありましたらお願いしたいと思います。</p>
<p>中島副市长</p>	<p>副市长の中島でございます。貴重なご意見をいただきました。座長さんが言われたとおり、組織の在り方というのは庁内の中でも毎年検討している部分でございます。先ほどスポーツの関係もありましたけれども、大森委員からいただきました文化財と文化の関係というのも課題として捉えております。文化財の価値を高めるためには教育委員会に置く必要があるのではないか、あるいは文化を発信するという部分では柔軟な体制が取れる市長部局に置くべきか、いろいろ全国のケースも研究しているところでございます。一体化して良い効果が生まれている部分も確認しておりますので、これからの組織の見直しの中で今のご意見を含めて前橋市としてどうあるべきかという部分は継続して検討させていただきたいと思っております。</p> <p>それから高等教育機関の充実ということで、なかなか若者の動向を我々もつかみにくい、いわゆる得意な分野と不得意な分野がありまして、今いただいた数字というのは本当にありがたい数字だなと思っておりますので、これにつきましてもこれからの戦略の中で活かしていけたらいいなと思っております。以上です。</p>
<p>中島座長</p>	<p>ありがとうございました。前橋6大学のプラットフォームを更に推進していただければありがたいと思いますし、昨日の上毛新聞に工科大学の建築の学科でしょうか、20人の学生を集めて市内企業が説明をしたら、前橋市内にこんなに良い企業があるのだというような記事が小さく出ていました。</p> <p>星委員さん、その辺りの経緯を、こうした取組を定期的にやっておられるのかそういうことも含めてまずご報告いただいてからご意見をいただければと思います。</p>
<p>星委員</p>	<p>シゴトークの話だと思うのですが、昨年は1桁台だったのですが、今年は募集したところ20人集まりました。必ずしも建築学科だけではなくて他の学生もいました。それから昨年は情報関係の企業に来ていただいて実施をしています。例えば建築土木関係ですと、5、6年前に市内の企業を全部集めた冊子を作っています。何が重要かといいますと、大学生は市内企業のことを知らないものですから、そうやって集めてもらうと知ることができるのです。おそらく中島座長のお話にあったのはそこにつながるのだと思います。市内又は県内に就職しないのではなくて知らないということが一番大きいので、私たちも</p>

	<p>キャリアセンターを使って情報を集めますけれども積極的に売り込むといったようなやり方で、工科大としても11月の業界・業種研究会それから3月の企業説明会の2度に分けて、みんなに同じ情報ではなくて必要な人に必要なものを与えていくと前橋市の企業のことが分かって考えています。そういう意味では昨日は大変意義があったと思います。</p>
中島座長	<p>ありがとうございました。その他に今回の議題の中でご意見がありましたらお願いしたいと思います。</p>
星委員	<p>私たちも数値目標にいろいろ苦しめられているのですけれども、取らなくてはならない数値というのは本当にそれなのか、例えばNo.10で結婚の話が出てきますけれど、大森委員の話にもありましたが、何歳になると結婚するみたいなことが前提にあって評価されています。その辺りをもう少し柔軟にしていくと、例えば年齢が少し上の人も取り込んで見ていくと数値はずいぶん変わりますし、前橋市としての在り方も変わるのではないのでしょうか。</p> <p>例えば私たちは大学ですので、基本的には18歳の人口が減るから大学生も減ると言われるのですけれども、政府からは大学も多様化しなさいと言われていて、その際は18歳人口ではなく本当に勉強したい人を探してくださいと言われてます。ですからこういったデータを取るときに対象の年齢を限定的に決めてしまうのではなくて、少し幅を持たせて数値を取った方がより前橋市の現状が見えてくるのではないかと思います。</p>
中島座長	<p>ありがとうございます。数値の捉え方ということで、何か事務局の方でご意見ありましたらお願いしたいと思います。</p>
草野 政策推進 課長	<p>結婚については初婚年齢が上がってきているというデータもございますので、ご意見を参考にもう少し幅広くデータを取っていききたいと思います。ありがとうございます。</p>
中島座長	<p>ありがとうございます。続いて小淵委員さん、いかがですか。</p>
小淵委員	<p>今の結婚の話について事前調書にも書かせていただき、先ほど幅を持たせてという話もありましたが、晩婚化の中でターゲットをどこに絞るのが見えづらいのかなと思います。ここでは20代、30代をターゲットにしていますが、40代、50代とは事情が違って、ターゲットによって施策も変わってくると思うのですが、その辺りについてこの事業ではどのように考えているのでしょうか。</p>
草野 政策推進 課長	<p>結婚支援事業自体が全国的に行政で取り組み始めたばかりで歴史の浅い部分がございますので、データの蓄積なども不十分であると思っています。基本的には群馬県の縁結びネットワーク事業なども含めて20代の方は行政の事業に振り向いていただけない実態がございます。先ほどの星委員さんのご意見にもございました、もう少し上の年齢に向けるメッセージなどの戦略が必要ではな</p>

<p>小淵委員</p>	<p>いかと思っております。</p> <p>また、若い方に対する情報発信というのは直接的なものがいいのか、あるいは少し分かりづらいかもかもしれませんが、既存の公民館事業ですとか、そういったものに若い方が参加できるような機会を間接的に拡充していくような取組をできたらと思っております。</p> <p>ありがとうございます。1つのやり方として前橋結婚手帖の配布をしていると聞いているのですが、これは現在どのくらい配布をされているのでしょうか。</p>
<p>草野 政策推進 課長</p>	<p>1,200部ほどです。また、インターネットで販売もしております。</p>
<p>小淵委員</p>	<p>1,200部というと、おぼろげな対象の何%程度になるか等、分かるのでしょうか。</p>
<p>草野 政策推進 課長</p>	<p>年齢的にどの世代に配布したかまでは把握しておりません。</p>
<p>小淵委員</p>	<p>先ほど大森委員からも話がありましたが、結婚自体に対する意識が薄れているということもありますので、大学などと連携をしながら結婚の在り方を考える機会を作っていくことも一つの考え方ではないかと思えます。</p> <p>それからミライバシが今年で2回目だったでしょうか、成果が出ているようですが、非常に応援したいなと思っております。新聞で取り上げる中で今までは新しいものに飛びついて報道するというパターンが多かったのですが、それだけだとなかなか浸透しませんのでフォローの記事も必要かなと思っております。そういうことも考えまして、ミライバシの取組は継続的に続けていくことが大事かなと思っておりますので、3年目、4年目に向けての考え方をお聞きできればと思います。</p>
<p>中島座長</p>	<p>それでは、産業政策課長お願いします。</p>
<p>木村 産業政策 課長</p>	<p>産業政策課長の木村と申します。ミライバシにつきましては、高校生向けに市内にどんな企業があるのかを知ってもらうのと同時に、地元で就職して働くというのは、これからの自分の人生にとってどんな価値があるのかというところを気付いてもらう目的で開催をしております。</p> <p>先ほどご意見でもありましたように今年度が2回目となります。4月にグリーンドームのメインエリアで開催しまして、市内企業34社に参加をいただきました。高校生は市内だけでなく、市外の高校からも含めて2,000人を超える来場者がありました。</p> <p>高校生に、生で私も意見を聞きましたけれども、“こんな企業があるなんて知らなかった、面白い企業がありますね”という意見を言っている生徒もいましたし、出展した企業側からは“こんなに高校生が生き生きとして私たちの話を</p>

	<p>聞いてくれるとは思ってもいなかった”という意見も聞きました。</p> <p>そのような意見も踏まえまして、当然アンケートもしましたけれども、3回目、4回目に向けては、出展する企業の数も増やしていきたいと思っておりますし、できるだけ多くの高校に参加を呼び掛けて、参加人数を増やしていきたいと考えております。</p>
中島座長	<p>小淵委員さんよろしいですか。</p>
小淵委員	<p>はい。</p>
中島座長	<p>ありがとうございました。そうしましたら続きまして前田委員さん、何かございましたらお願いしたいと思います。</p>
前田委員	<p>はい。今もお話に出ていましたけれども、自分なりに思っていたことがあります。結婚関係、結婚支援の話ですが、この行政評価を拝見して、19、20ページの結婚支援ネットワークの形成が先ほど課題のある事業だとして説明をしていただいたところですが、私は市民団体の縁活の事業をしている方に呼ばれて、一緒にしたことがあるのですが、そこで集まる方たちの年齢層はすごく幅が広がったです。ですから、年齢別にターゲットを絞るというのは、それはそれで合理的で良いと思うのですが、この例に限らず、集まってきた人たちが思ったよりも年齢層がいろいろだったということを申し上げておきます。また、人とつながることがとても大変という感じがありました。</p> <p>結婚したいとか誰かとパートナーになりたいという意欲、気持ちはあるけれども、触れ合う場に出ていくのがちょっと大変というのをとても感じましたし、そういう声が聞こえていました。1回のイベントではあったのですが、時間をかけて中身がいろいろなパターンになっていたイベントでしたので、最後の方では皆さんとても和やかな感じになって、とても緊張していた最初の時の顔と帰る時の顔が全然違っていました。それと個人的な関係を作るために連絡先をやり取りしておりました。その時の声と、全体の雰囲気からしてですが、一過性のイベントではなくて、どこかに行くと会える、そこに集まれば誰かがいるという場が欲しいということが言えます。</p> <p>こうしたイベントに対しての補助金というのが出ていると思うのですが、19ページの評価Cの横の分析されている中に、実際に活用者に対して情報が行き届いていないということと、もう一つ補助金の上限額が低いから使いにくいというのがあったと思います。これはイベントを開催している方たちからも聞きました。本当はこういうものをやりたい、本当はプラットフォームのようなものを作りたい。でも、補助金のスタイルとマッチしないのでなかなか難しいという声を聞きました。若い人だけでなく、40代も含めて、結婚だけではなく、人とつながるということができる場が増えれば、それがやがて地域のつながりとか、その中で結婚という形で進むのではないかと思います。もちろん、そのような場を作ることを支援されているとは思いますが、もう少し増やしてもいいのではないかなと、現場の声を聞いて思いました。以上です。</p>

中島座長	<p>ありがとうございます。事務局、何かご答弁ありますか。</p>
草野政策推進課長	<p>はい、参考にさせていただきたいと思いますが、一番は我々の情報発信が弱い、届いていないというのを実感しておりますので、群馬県の婚活ネットワークというのは実は世話人制度というのもあったりするのですが、それをもう少し前橋市、あるいは他の市や県と連携してまずは知っていただきたい。そういった取組を強化していきたいと思っております。</p> <p>それと、補助金の関係ですが、今年度ささやかでございますが、使い勝手の部分は少し見直しをしております。いろいろ工夫していきたいと思っておりますので、いろいろなご意見を引き続きお願いしたいと思っております。</p>
中島座長	<p>ありがとうございます。若干見直しをしていただけるということでございますので、対応していただければと思います。</p> <p>それでは荻原委員さん、いかがですか。</p>
荻原委員	<p>保証協会の荻原と申します。今年度も昨年に引き続き、委員を務めさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。</p> <p>私からは、話がまた変わってしまって恐縮なのですが、学童期の子どもを持つ親の立場から、学校環境について、質問と確認をさせていただきたいと思っております。</p> <p>先ほど、大森委員から若者の定着についてということで、数字を絡めて大変興味深いお話をいただきました。ありがとうございました。学校は、子どもたちにとって心身の成長を図る上で重要な機関であると同時に、ふるさと前橋に対する思いを育む機関としても重要だと思っております。</p> <p>地元の大学に進学して地元に残るという若者の率が非常に高いのでそこを上げていくことも必要だというお話、共感させていただくのですが、私自身、一旦県外に就職して、でもやはりいつかは、地元に戻りたいという思いを持って県外に出た一人でございます。その時にやはり地元に戻りたいと思っていたのは、良い時間を過ごさせてもらったという思い出があるからこそなのかなというふうに思います。学校でも非常に友達にも先生にも恵まれて、楽しい時間を過ごせたので、戻りたいと思ったのですが、ここ最近、教職員間のいじめというようなことが、全国各地の事案として報道されていて、加えて問題があった学校では、子ども同士のいじめの件数も、急増していたというお話を伺いました。</p> <p>市内の小中学校では報道のようなことは起こってはいないとは思いますが、人と人が関わる中では、ときに関係が悪くなるというのは、学校に限らずこの社会でもあることだと思います。私からは万が一、教職員間でトラブルが発生した場合の解決のスキーム、どのような対応や解決、学校現場のマネジメントに任せる以外に取組だとか準備が何かあるのかといったことや、トラブルの把握状況について伺いをさせていただければと思います。よろしく申し上げます。</p>
中島座長	<p>教育長さん、お願いします。</p>

塩崎教育長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>今のお話を聞いて、一番うれしかったのは、学校が好きな子どもたちを前橋は育てたいということ、つまり地元というか、ふるさとが好きな子どもたちを育てたいと思ってやっていることが年々重なって行って、大きくなってもそういう気持ちで地元に戻ってきてくださる方がいらっしゃるのだなというのを感じて本当にありがたいと思いました。</p> <p>先ほどの教員同士のいじめということについては、本当にあってはならないことですし、前橋ではないと私は思っております。やはり先生方同士の間関係作りというのが一番大事になる、それがうまくいくと子ども同士の関係もうまくいきますし、人と人との関係をどうやって育てていくのか、これは幼児期から大事になってくる内容だと思っています。</p> <p>I C Tとかネットとかいろいろなことが出ていますけれども、一番大事なのは直接触れ合う体験。この体験を大事にしたいというところが、前橋の教育の基本のところにあります。人と人が触れ合うのもそうですし、外で遊んだり自然と触れ合ったりする体験も大事だと思っていますので、そういった直接体験を大事にしながら生の人間関係を作っていく力を小さい時から育てて積み重ねていきたいということが一番の願いです。それができれば、先生方同士も人間関係がうまくいきますし、もちろん子ども同士もうまくいく。学校の中の関係もそうですし、子供との関係もそうだというふうに思います。全体として、直接体験を大事にするということをコンセプトに県都まえばし教育のまちとして進めていければありがたいと思っています。様々な家庭もありますし、いろいろなお子さんもいますので、トラブルがないということはないと思いますが、そのトラブルをどうやってうまく解決していくかという力をやはりここにいらっしゃる方々にもお世話になりながら、地域やいろいろな企業、あるいは専門家の力をいただきながら、力をつけていけるような前橋であって、前橋の教育でありたいというふうに思っています。</p> <p>明快な回答でなくて申し訳ないのですが、そういう想いを持っているということだけはお伝えしたいと思いました。ありがとうございます。</p>
荻原委員	<p>ありがとうございました。</p>
中島座長	<p>よろしいですか。はい、ありがとうございました。</p> <p>そうしましたら登坂委員さん何かございましたらお願いいたします。</p>
登坂委員	<p>私も産業振興などいくつかで質問等させていただきました。産業振興は、毎年のK P I だけでは測れないところがあって、新産業などは10年20年かかりますし、I Tに力を入れるといってもI T系のベンチャーは大都市に行ってしまうということもあるので、やはり難しいテーマだと思っています。それで全体的にいろいろなところを見て、総合評価をしたいというところは大事かと思っています。</p> <p>新産業に関するコメントの中に老舗のお菓子製造業者の話が出てくるのですが、私などが全国を取材していると、新産業と言った場合には、本当のゼロか</p>

	<p>ら作る産業ととらえている人も多いです。既存産業の活性化とどう違うのか、その辺りのイメージの統一が必要なのかなという感じがします。市民の方を巻き込まないとやはり政策は推進できませんから。新しい産業を興して行って、10年後20年後の市の基になる経済的なポジションを確保するためにも広報活動を少し見直した方がよいのではと思っています。</p>
中島座長	<p>ありがとうございます。その老舗お菓子屋は私が書いた意見でございまして、確かに新産業は、理屈はそうなのですが10年20年経った後では全然状況が変わってしまいますので、今が問題ですので、そこを対応できることは何かないのかなというふうに思っているのですが、産業政策課長、いかがでしょう。</p>
木村産業政策課長	<p>確かに市内で新産業を興すというのは大変魅力的ではありますが、もしそういうことができたらそれにつられて様々な産業界の覚醒が巻き起こって来るのだと思うのですが、やはり行政とすると新産業とすれば前橋はこれだということをピンポイントにはなかなか描きにくいというのがあります。それは、ピンポイントではない産業というのはどうでもいいのかという議論にもなっていますし、言葉が適切かどうかは分かりませんが、どうしても総花的になってしまうのが現実だと思います。</p> <p>ただし、先ほども申し上げましたように、新産業というのは魅力的ではありますが、それに伴う波及効果というのも大変大きいと思っていますので、これからもそういったところに目を逸らすことなく取り組んでいきたいと思えます。</p>
中島座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>よく経済産業省とか中小企業庁などが群馬県に来ますと、群馬県の西毛は商業、東毛は工業、北毛は農業という選別をされるのですが、その真ん中にいる前橋は、なかなか今、課長がおっしゃるような状況なのだと思います。逆に可能性もあるのかと思います。ありがとうございました。</p> <p>委員の皆さん、まだ他にご意見のある方がいらっしゃれば、挙手をお願いしたいと思います。</p>
村井委員	<p>すみません。せっかく来たので、商工会議所らしいことを少し話したいと思えます。今、全国的にもそうなのですが、ここ2年間くらいで中小企業が25万社くらい廃業しています。どんどん事業者が少なくなっています。これは、一番は後継者がいない中で、事業承継できていないというのがあります。</p> <p>もう一つは、やはり人手不足の問題と、それに対応するようなことで、生産性を上げなくてはならない。あるいは働き方改革の対応をしないといけない。そうしたなかで、IoTを使いなさいといってもIoTを活用する人材がなかなか育たないで、廃業しているところもかなり増えています。ここにきて、消費税も上がりまして、小さいお店では消費税、軽減税率を含めて対応していくというのはなかなか経費が掛かる話で、後継者もないのでやめてしまおうといったお店もたくさんあるというような状況にあります。</p> <p>今、大森委員がお話されたように、地元の大学とプラットフォーム事業とい</p>

	<p>うことで、とにかく大学と産業界が連携して、地元に残っていただくとか東京などに行ってしまった人を呼び戻す政策だとか、あるいは一旦地元企業に入ったけれども、もう一回学び直しして、ITなどもう少し充実した教育を受けていただき、企業を立て直してもらおうといったこともやっているのですが、なかなかそれだけでは事業者が増えないということの中で、やはり、先ほど話がありましたけれど、新しい産業、起業家など創業を増やすということも一つだと思います。上毛新聞だとか JINS さんもいろいろなアワードをやって、いろいろな大賞を決めたり、また支援していただいたりしていますが、やはりそのような人たちが、挑戦してみようといった気持ちを抱かせるような仕組みを作らないと、なかなか地方で起業する人はいないです。</p> <p>ただ、どちらかというと、市民も含めて、ナショナル店のようなどころでどうしても買ってしまう。地元のスーパーではないとか、地元のコーヒーショップではないところで飲んでしまうといった、なかなか地元の人が始めても、地元で儲からないといったところがありますので、この辺りはやはり、自分たちのローカルビジネスを支え合おうといった仕組みを作っていくと難しいと思っています。</p> <p>中心市街地も含めてだんだんとお店が増えてきていますので、みんなでまちなかに出て行って、お金を落とそうとか、地元のお店で買おうといった仕組みをぜひ作っていただけるとありがたいと思っています。まちなかに来たことがないという学生がけっこう多いのですが、ぜひ、まちなかに出てきていただいているいろいろな形で貢献していただくありがたいところで、少し希望も含めて感想を述べさせていただきました。</p>
中島座長	<p>ありがとうございます。今、全国に 515 の商工会議所があり、一口にその会員企業 125 万社というふうに言っていて、事業承継の問題、人手不足の問題、その解決に向けていろいろと取り組んでいるのですが、その 125 万社をいつまで使うのだという議論も中にはあるのだろうなと思っていますところでございます。</p>
	<p>そうしましたら（１）の議題につきまして、意見がなければ、（２）の前橋版総合戦略地方創生推進交付金事業についてに移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>そうしましたら事務局、説明をお願いいたします。</p>
草野政策推進課長	<p>【資料４、資料５、資料６に基づき説明】</p>
中島座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>大森委員さん、資料５の事業No.2の全ての実績がゼロでというところは先ほどの説明でよろしいでしょうか。</p>
大森委員	<p>はい。全ての実績がゼロで評価が③となると、内閣府に怒られないのかなということが心配で意見を出させていただきました。</p>

中島座長	<p>わかりました。</p> <p>そうしましたら、各事業に対する意見がありましたらお願いしたいのですが、武井委員さんいかがでしょうか。</p>
武井委員	<p>先ほどの（１）の議題に関わってくるのかもしれませんが、今回の人口動向を拝見させていただくと、総人口の減少は想定よりも抑制ができて一方、合計特殊出生率や若者の転出状況は厳しい状況であるとのことでした。年齢別の構成を見ると、高齢者が増えている。また、外国人の方が増えているという状況で、これが当初想定していたものと違った環境になったということなのかなと思いました。</p> <p>そうしますと、環境の変化を踏まえて、先ほどの行政評価で見た５３事業も見直すことがあるのかということを確認したいと思います。</p> <p>また、事業の個別の進捗を見たときに、やってみたら予想していた以上に骨が折れるということもあるかと思います。想定以上にコストやマンパワーが掛かっているものもあるかと思います。費用対効果の観点から、スクラップアンドビルドをすることがあるのかということを確認させていただきます。</p>
草野政策推進課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>これは、環境の変化、特に外国人の部分になりますが、総合計画の個別事業に位置づけが弱かった部分がありますので、そこは課題として挙げております。増加している外国人の定住や事業承継など、うまく一緒にやっていける施策を検討していきたいと考えています。</p> <p>全体としましては、来年度、総合計画の重点事業の位置付けについて、継続するものや入れ替えるものなど、一回見直したいと考えています。</p>
中島座長	<p>よろしいでしょうか。</p>
武井委員	<p>はい。ありがとうございました。</p>
中島座長	<p>そうしましたら、田村委員さんお願いします。</p>
田村委員	<p>はい。日本政策金融公庫の田村でございます。</p> <p>人口動向は、想定よりも減少幅が抑制されているということでした。前橋市全体とするとそうなのですが、旧町村との均衡ある発展という部分では、なかなかそうもいかない所もあるかと思います。</p> <p>日本政策金融公庫としましては、赤城南麓地域は農業地帯でもありますので、そういった中で、農業者への支援など、取引金融機関と連携してサポートしていきたいと考えています。市中心部と旧町村との均衡ある発展につながっていければと思います。</p>
草野政策推進課長	<p>前橋でも立地適正化計画や先ほど話に出ましたアーバンデザインといった計画を作っております。</p>

中島座長	<p>また、総合計画の理念もそうですが、やはり、集めるところには集める。郊外は郊外なりの発展の仕方というバランスが大事だと思います。今の拡散したまちは50年以上かけて拡散してきたものですから、この部分につきましては粘り強く、地道に取り組む必要があると考えています。</p> <p>そうしましたら、松井委員さんお願いします。</p>
松井委員	<p>前橋市社会福祉協議会の松井と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>資料4の中で、前橋市の総人口の推移ということで、先ほど武井委員からも話がありましたけれども、外国人の方も増えていますし、高齢者の方も増えているという状況が見受けられるのかなと思います。</p> <p>高齢化の部分で申し上げますと、社会福祉協議会でも、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを進めているところです。その中で、地域の課題は地域で解決するというので、「支え合いの手引き」というものを作っております。</p> <p>我々としても、今後人口構成の変化に対応できるような仕組みづくりを各自治会や地区社会福祉協議会などと連携しながら進めていきたいと考えております。</p>
中島座長	<p>ありがとうございます。意見ということでよろしいですね。</p>
松井委員	<p>はい。</p>
中島座長	<p>ほかにご意見がありましたら挙手をお願いしたいと思います。</p> <p>なければ、次の議題に移りたいと思います。</p> <p>(3) 次期総合戦略の策定方針について、事務局より説明をお願いします。</p>
草野政策推進課長	<p>【資料7に基づき説明】</p>
中島座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>実務的に進めるということで、この有識者会議で議論を進めるというものではないということですね。</p>
草野政策推進課長	<p>はい。</p> <p>改訂内容は、また送付させていただきたいと思いますが、事後にご意見をいただきたいと考えています。</p> <p>こちらの方で、交付金の例などもよく調べながら進めたいと思います。</p>
中島座長	<p>このような進め方だそうです。</p> <p>廣瀬委員さん、何かございますか。</p>
廣瀬委員	<p>はい。前橋行政県税事務所の廣瀬でございます。</p> <p>ご参考までに、県としましても、やはりまち・ひと・しごと創生総合戦略に</p>

中島座長	<p>つきましては、どうしても地方創生関連交付金の獲得に必要なものですから、前橋市さんと同様に必要な見直しをしまして、空白期間が生じないような形で策定をするということになっております。</p> <p>ただ、群馬県の場合は、県の総合計画をこれと切り離して別途策定するというということになっております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>そうしましたら、鈴木委員さん何かございましたらお願いします。</p>
鈴木委員	<p>ハローワーク前橋の鈴木と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>ジョブセンターまえばしの中で、国の事業としてハローワークの事業を行っております。</p> <p>今、若年者というのを40歳くらいまでと想定しているのですが、来年度から、国でも方針として氷河期世代の方たちを対象に、年齢をもう少し上げるようなことを念頭に置いて支援の強化を図っていくということで進めております。</p> <p>そのような中で、ジョブセンターまえばしでの若年者の取扱いが人数的には減少しているので、他の関連機関と併せてそこに力を入れていこうと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
中島座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>そうしましたら、代理でご出席いただいている野澤委員さんお願いします。</p>
野澤委員	<p>J Rの野澤でございます。</p> <p>我々も鉄道事業を営んでおまして、利用者の減少が大きな関心事でございます。利用者といいますと、人口減少が大きなハードルとなっておりますので、こういった会合を通じて、お力添えをできればと思います。</p> <p>J Rとしても、前橋市の交通政策課の皆さまと新しいM a a Sですとか、いろいろな手立てで還元して、県外からの誘致や県内の方々の交通の利便性拡大に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
中島座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>交通関係について大きな動きが出そうなところで、商工会議所としても非常に期待をしているところでございます。</p> <p>そうしましたら、一応全ての委員さんからご意見をいただいたところです。</p> <p>(3)の次期総合戦略の策定方針としましては、資料7の真ん中にあります①から④の観点に基づいて、事務局において策定作業を進めるということでご了承いただけるでしょうか。</p> <p>【了承】</p> <p>ありがとうございます。そうしましたら、ご承認いただいたということで、策定作業を進めていくこととします。</p> <p>以上で議題は終了となりますが、全体を通じて、ご質問、ご意見等があればお願いします。</p> <p>私の方からですが、来年、重点事業の見直しをするという説明が草野課長か</p>

<p>草野政策推進課長</p>	<p>らありましたが、来年度は3年目となります。10年の計画期間の中で、どのタイミングという基本的な考え方があるのでしょうか。</p> <p>3年から4年で、一旦続けるものと続けられないものを見直していこうというものです。やはり、昔と違い、時代の流れは速くなっていますので、そういったことを総合計画の中でも掲げております。</p>
<p>中島座長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは予定されていた議事が終了しましたので、座長の任を解かせていただきます。皆さんご協力大変ありがとうございました。</p>
<p>稲田政策部長</p>	<p>中島委員さん、議事進行、誠にありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局より事務連絡です。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>事務局よりご連絡がございます。</p> <p>1点目は、本有識者会議についてでございます。本有識者会議につきましては、平成27年度に設置させていただきまして、県都まえばし創生プランの第1期計画の策定や進捗、また、第七次前橋市総合計画の策定についてご意見をいただきました。</p> <p>今年度が県都まえばし創生プランの第1期計画の最終年度となることから、現在の委員の皆さまによる会議は一旦終了とさせていただきたいと思っております。</p> <p>次年度以降、引き続き委員をお願いする団体もありますが、一旦今年度が区切りということで考えております。</p> <p>次に2点目でございます。</p> <p>本日の会議録につきましては、作成出来次第、委員の皆さまに送付させていただきます。</p> <p>あともう1点です。</p> <p>資料3で事前にいただいた意見と本日いただいた意見を踏まえ、行政評価調書（資料2）の見直しを行いますので、少し時間をいただきますが、最終版を後日送付させていただきます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>稲田政策部長</p>	<p>ただいま事務局よりご連絡をさせていただきました。</p> <p>委員さんの関係、議事録の作成等に関する事項ですが、この点に関しまして、ご質問等がありましたらお願いしたいと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>そうしましたら、閉会にあたりまして、県都まえばし創生本部 副本部長の中島副市長よりご挨拶をさせていただきます。</p>
<p>中島副市長</p>	<p>委員の皆さまには長時間にわたりご審議をいただきまして誠にありがとうございました。また、座長さんには円滑な進行をしていただきありがとうございました。心より御礼を申し上げます。</p>

稲田政策部長	<p>本日ご審議をいただきました総合計画、総合戦略でありますけれども、我々が進める政策の中の最重要課題であると捉えております。</p> <p>冒頭の市長の挨拶でも話がありましたが、暮らしやすいまちづくりということで、この計画に沿って我々もしっかりと取り組んでいかなくてはいけないと思っております。</p> <p>評価が手前味噌なところもございますが、そのような中で、委員の皆さまからありがたい意見を頂戴いたしました。これを基に、これからの政策を練っていきたいと思っております。</p> <p>このメンバーでの会議はこれで終了ということになりますが、今後検討をしていく中で、ご協力をいただく場面もあるかとは思っていますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>以上で閉会の挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、以上を持ちまして、県都まえばし創生本部有識者会議 令和元年度第1回会議を終了とさせていただきます。</p> <p>長時間にわたりご協議をいただきまして誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--------	---